



2面あるリビングの窓は天井付近まで採られ、自然光がたっぷり射し込む。シーリングファンで風が心地よく回り、ここから眺める夕景はドラマチックに1日を締めくくる

湘南に暮らすということ。

002

[葉山町]

Toshiaki Kato

加藤利章邸

ネオンの輝きが広がるみなとみらいの高層マンションから、葉山の小高い土地に家を構えた加藤夫妻。新築の2階リビングからは山や海のパノラマビューが広がる。「以前のマンションでも都会の景色が綺麗でしたが、変化が少なくいつの間にか慣れてしまいました。それに対し、この家のリビングにいると四季の移ろい、太陽や月の動きまでが気になり、いつまでも景色を眺めています」

家づくりの第一歩を導いたのはドールハウスを長年の趣味とする奥様だった。モデルハウス巡りも好きだそうで、ハウゼの注文住宅に出会う。「こんな一軒家なら建てたい！」と旦那さんを説得し、土地探しと家づくりが始まった。

旦那さんは葉山や横須賀近辺で訪問医療のドクターとして活躍されており、この周辺の環境の豊かさに魅かれていたという。

「理想の土地とビルダーさんに出会ったことで移住が実現しました。ハウゼさんの的確な提案で家づくりを楽しむことができました」

完成したタイミングで息子さんを授かり、新たな家族の暮らしが穏やかなこの地で始まっている。

この家に住んでから、窓の外を眺める時間が増えた。

海や山を背景に描かれたドールハウスの絵画は
数年後、現実の住宅として実現することに。

Photo/Y.Ozawa Text/T.Tsuchiya



1.家の顔となる玄関側は外壁のサイディングや格子状のサッシによりアメリカンな印象を生んでいる。アイアンの門扉や通路の敷石は、家の内部のデザインとも通底している 2.正面には葉山の山の間を抜けるような見事な眺望が開ける。この理想的な土地に巡り合ったことから家づくりはスタート。購入時は更地だったそうだがハウゼのデザイナーが描いた手描きのイメージスケッチにはこの眺めを活かした家のデザインがすでに描かれていた



02



05



04



03



01



09



06



08



07

1. 広がりのある玄関ホール。奥手に続く廊下はヨーロッパの小道をイメージした石畳を採用。さらに2階へと伸びる階段にはほどよいアールがありリゾート感も演出。アイアンの手すりは特注でニュアンスをつけた 2. ゲストルームにあるのは、奥様が高校生の時より10年ほどかけて作り上げたというドールハウスの大作。家具の1点1点も細かく手作りした 3. 新築の計画がなかった時に、完成したドールハウスを題材に奥様のお母様が描いた油絵。海あり山ありの景色がちょうど今の家のロケーションにシンクロしていて驚いたそう 4. 玄関の正面に位置する坪庭に常緑樹のシマトネリコを植栽。成長すると2階のダイニング横手の窓まで緑の葉を広げる



03



04



01



02

1. 高い吹き抜けとなっているキッチンには明るく開放的。収納が多くダイニングとひと続きのため片付けやすい 2. ダイニング右手のガラスが鏡の役割を果たし、洗い物をしていても海が見える 3. 玄関や廊下にはオレンジ色の石を敷き明るさを演出する 4&5. ハウゼのコーディネーターと相談して遊んだというトイレの壁紙。2本下がる右の照明は前の家のものを活用。左の壁紙は名古屋出身の夫妻にちなんだゴールドを取り入れた 6. 建築法上、3階建てには出来なかったがロフトを付設。畳敷きとし、子どもが大きくなった際の遊び場にしようと計画 7. 1階にはウッドデッキを設置。サイドにはシャワーがあり、海帰りに足洗ってから室内に入る動線としても利用できる 8. 2階洗面所の壁にはタイルを用いて周囲の壁とのアクセントに 9. シックな壁色やダークトーンの床など高級感のある寝室。大阪のリッツ・カールトンホテルの部屋が気に入り、デザインの参考にしたそう